



「活きている ことわざ」

船橋市議会議員（無所属・4期）

神田 廣栄（かんだひろえい）市議会報告

【事務所】

船橋市前原西8-24-8

☎047-490-3333

Fax 465-7117

Eメール hiroei@muc.

biglobe.ne.jp

ホームページ <http://www.hiroei.jp>

hiroei.jp

厚顔無恥（こうがんむち）^(こがむち)。藪（やぶ）^(やぶ)をつついて蛇を出す

【厚顔無恥】◇他人の迷惑などかまわず、自分を押し通していく、厚かましくずうずうしいさま。

《解説》面の皮が厚い。面の皮の千枚張り。鉄面皮。

《対句》純情可憐。

【藪をつついて蛇を出す】◇余計なことをして、かえって思わぬ災いを招くことのたとえ。

《解説》別につづく必要もない藪をつついて、蛇をはい出させてしま
う、という意から。

《同義語》藪蛇

新年おめでとうございます。昨年は大地震、台風、豪雨、酷暑とあらゆる災害に見舞われ多くの人命と財産が奪われてしまいました。改めてお悔やみとお見舞いを申し上げます。今年こそ災害の無い平穏な一年であって欲しいものです。

昨年末、天皇陛下は誕生日（12月23日）の前日の会見で、何度も感極まり、言葉を詰まられお話しされました。特に「自らも国民の一人であった皇后が、わたしの人生の旅に加わってくれた」のくだりには目頭が熱くなりました。常に国の平和と国民の安寧（あんない）を願われてこられました。私も国民の一人として誇らしく尊敬の念を禁じ得ません。



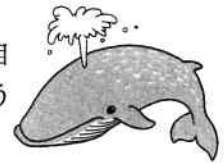
平和

さて、年末の同じ頃、政府は※IWC（国際捕鯨委員会）を脱退し、30年振りに商業捕鯨再開する方針に最終調整に入った、と報道されました。昨年の9月のIWC総会で、日本は商業捕鯨の再開を提案したが反対多数で否決されました。ならば、その委員会を脱退してでも商業捕鯨をしていこう、ということみたいです。捕鯨の歴史がある和歌山県選出が地元の与党幹事長などの「脱退すべし」の声も報道されています。

※IWC クジラ資源の保存と捕鯨産業の秩序ある発展を目的に1948年に設立し、昨年8月現在で89カ国が加盟している。シロナガスクジラやザトウクジラなど大型の13種類を管理対象としている。

そしてついに、政府は12月26日に脱退を表明しました。今年の7月から日本近海で商業捕鯨を再開するそうです。捕鯨関係者は喜んでいると思いますが、各国から非難されることは間違いありません。

深い事情まで知って、このことの是非を言うわけではありませんが、自分たちの思惑が通らないなら、そんな委員会は脱退してしまおう、ということに「あれ、どこかでもこんな話あったな」と思いました。



そうです。独裁的で我がままな、近くて遠い国の某国などと重なってしまいました。ひどい国だな、なんて思っていたのが、最も身近で大切な我が国も同様ではないか、と思いつつ、某国などを非難できなくなりました。最近多くのことで、日本そして日本人が古来より持っていた美德と誇りが失われてきているようで、悲しんでいるのは私だけでしょうか。



さらに、日本の国際機関脱退は、戦後ほとんど例がなく極めて異例。国際社会からルール軽視の批判を浴びることは避けられない。とも書いてあり、その通りだと思います。自己中心主義で『厚顔無恥』な振る舞いです。脱退すると南氷洋での調査捕鯨もできなくなるとのことです。まだまだ粘り強く交渉していく必要があると思います。

国ではなかなか爽快な話題が乏しいのが現実ですが、船橋市議会でも明るい話題がなかなか見つかりません。厳しい財政の中、ぼちぼち定数削減の話が出てきても良いと思っています。以前に、50人の定数を5人削減し45人にと、提案しましたが、それぞれの思惑があり否決されました。今の時期に声高に言うと、今年の4月に選挙がありますので「選挙目当て」と言われそうですが…。



続いて、12月議会で質問した中から一つを書きます。



間もなく卒業式のシーズンになります。最近、特に気になることがあります。小学校の卒業式における**卒業生の服装**についてです。少しのお粧(めか)しは普通だと思いますが、華美な服装(男子は袴、女子は着物)を着て卒業式に出席することに首を傾(か)げたくなくなります。

一生に一度の小学校の卒業式だから、保護者も頑張って着せてあげたい気持ちは良く分かります。しかし、一人が着ると「誰それが着るから僕(私)も着たい」とせがまれることになってきます。着せたくても着せる余裕のない家庭もあると思います。「いじめ」につながるかも知れません。華美な服装をすることのメリットはほとんど考えられませんが、どんなデメリットあるかを聞きました。

— 学校教育部長の答弁 —

袴など和装のデメリットを考えますと、和服の購入費やレンタル料、着付け代などの高額な費用負担が考えられます。また、普段と違い、腹部を締め付けられた服装となりますので、気分が悪くなる児童がいることや、気慣れない袴で壇上へ昇り降りする際に、つまづくなどの危険性が挙げられます。さらに、トイレで用をたす際に手間取ったり、着崩れしても自分では服装を直せなかったりすることが考えられます。

既に、保護者が話し合って「和装はやめよう」と決めた小学校もあると聞いています。

大切なこの時期『藪をつついて蛇を出す』ようなことを質問しましたが、幸いにも、時を同じくして、12月12日のYAHOO!ニュースに「卒業式〈華美過ぎる〉東松島市長が小学生のはかま疑問視 服装で優劣が出ないように」の記事が配信されていました。一部を流用します。

《宮城県東松島市の渥美市長は11日、市議会12月定例会の一般質問で答弁し、はかまや着物を着て卒業式に出席する女子児童が近年増えている現状に疑問を呈した。各家庭の経済格差を考慮した発言。9割がはかまを着用した学校もあり、服装で優劣が出ないように高学年への制服導入も議論が上がった。渥美市長は「はかまを着られない少数の児童が劣等感を感じ、卒業式を心から喜べていないと危惧している。経済的な事情で着たくても着られない女の子の心情は果たしてどうなのか」と強調した》



公立小学校に制服の導入はどうかと思いますが、あとは全く同感です。今年は既に予約している方も多と思われるのですが、次年度からはご留意戴きたいと思っています。